

平成27（2015）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	地域福祉の理論と方法Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB13002	
担当者氏名	小林 茂				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）				

《授業の概要》

地域の福祉問題解決へのアプローチおよび地域福祉の推進方法について学ぶ。併せて当事者、住民の主体形成を支援しながら問題解決を図るため、専門職が果たすべき役割について考察していく。

《テキスト》

「新・社会福祉養成講座9 地域福祉の理論と方法(第3版)」
 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版
 適時、補助教材を配布する

《参考図書》

- ・「地域福祉論」岡村 重夫 光生館（2009）
- ・「地域福祉推進の理論と方法」平野 隆之 有斐閣（2008）
- ・「社会福祉士 相談援助演習(第2版)」長谷川 匡俊、上野 谷佳代子等編 中央法規出版

《授業の到達目標》

1. 地域福祉におけるネットワーキング(多職種連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する
- 2 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、ニーズの把握方法、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法など）について理解する

《授業時間外学習》

1. 予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2. 復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。
3. その他： 学生自身の暮らしの場である地域にはどんな人々が暮らしているか、どのような地域社会であれば暮らしやすいかを日頃から考え、問題意識を養うこと。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 10%
 - (2) 課題レポート 25%(提出遅れは減点)
 - (3) 定期試験 65%
- ※レポートは採点后コメントを付して返却する

《備考》

授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
 授業配布のプリントおよびノートは整理し、いつでも振り替えられるようにすること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域福祉の方法について	コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークの概念を理解し、それぞれの特徴と実践方法について整理して説明できるようにする。
2	地域福祉の推進と住民参加	住民参加の意義と役割/住民参加の形態/専門職・機関と住民との協働について理解する。
3	ソーシャルサポートネットワーク①	「たすけあい」の歴史とソーシャルサポートネットワークの考え方を学び、フォーマルサポートとインフォーマルサポートの特性、ネットワークづくりの方法を理解する
4	ソーシャルサポートネットワーク②	エコロジカルアプローチの意味を学び、ライフモデルにおけるソーシャルネットワーク実践の考え方、エコロジカルアプローチの方法を理解する
5	地域における社会資源の活用・調整・開発①	様々な地域にある社会資源の内容と特徴を学び、社会資源の開発と活用の意義、コーディネートの方法について理解する
6	地域における社会資源の活用・調整・開発②	ニーズ対応型福祉サービスの開発および税制優遇と助成金の活用について理解する
7	地域における社会資源の活用・調整・開発③	市民活動、まちづくりとソーシャルアクションについて理解する
8	地域における福祉ニーズの把握方法と実際①	地域福祉におけるアウトリーチの意義および質的な福祉ニーズの把握方法と実際について理解する。
9	地域における福祉ニーズの把握方法と実際②	量的な福祉ニーズの把握方法と実際について理解する
10	地域トータルケアシステムの構築と実際①	地域トータルケアシステムの必要性と考え方、ジェネラルショーカーのワークの展開過程を理解する
11	地域トータルケアシステムの構築と実際②	地域トータルケアシステムの展開方法について理解する
12	地域における福祉サービスの評価方法と実際①	福祉サービスの評価を必要とする背景、評価の考え方、評価を行う場面等について理解する
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際②	福祉サービスの評価の方法(プログラム評価、プロセス評価、アウトカム評価等)について理解する
14	災害と地域福祉	災害時における地域福祉実践の視点と方法について理解する
15	日本の地域福祉に影響を与えた理論	日本の地域福祉の理論形成に影響を与えたイギリス、アメリカの理論等を理解し、日本の地域福祉との関連性を理解する

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目ナンバリング	SFFB23011
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

ソーシャルワークの二次専門分野のひとつとされる「医療ソーシャルワーク」の理論と実践の概要を学ぶ。事例の検討を通じて、ソーシャルワーカーの視点を考察し、ソーシャルワークの価値と倫理の理解を深める。

《授業の到達目標》

保健医療サービスの利用者である患者および家族の生活問題を学ぶ。また、サービス提供制度及び担い手たちの特性を理解し、利用者（患者・家族）を中心とした連携のあり方、医療ソーシャルワーカーの具体的実践についてイメージができ、支援の基本的枠組みを考えることができるようになる。

《成績評価の方法》

(1) 授業内小テスト（採点後返却します） 60%
 (2) 期末課題レポート（患者と、その家族など当事者の闘病記や体験記を読み込みレポートにまとめる（A4・2枚・2400字以上） 40%
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業内で資料を配布します。

《参考図書》

- ①「新・医療福祉学概論」 佐藤俊一・竹内一夫・村上須賀子 編著 誠信書房 2010
- ②「医療ソーシャルワーカーの力」 村上須賀子・竹内一夫 編著 医学書院出版サービス 2012
- ③新・はじめて学ぶ社会福祉「保健医療サービス」 杉本敏夫 監修 ミネルヴァ書房 2017

《授業時間外学習》

患者とその家族など、当事者の闘病記や体験記を幅広く読み、「病」をかかえながら生きるということの生活体験について、共感的に理解を深めてほしい。

《備考》

授業内テーマに対する考えや意見を求めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事例からみる医療ソーシャルワーク	授業のオリエンテーション 事例による「医療ソーシャルワーク実践」から、必要な知識・スキルを概観する
2	医療ソーシャルワークの歴史的概観	日本、イギリス、アメリカにおける医療ソーシャルワークの歴史を概観する
3	医療ソーシャルワークの構造モデル	「医療と福祉」から「医療福祉」の統合的視点の意義について学ぶ
4	患者の心理	病と疾患の違い、役割理論から学ぶ「患者」の世界観を概観する
5	医療の生態系の理解	医療法、療養担当規則の理解、医療機関の組織上の特徴と、医療ソーシャルワーカーの組織内外の「連携」について、
6	医療ソーシャルワークを支える価値	医療ソーシャルワーク実践における、一般的ソーシャルワークと共通する実践的価値と特徴的な価値を学ぶ
7	高齢者福祉と医療ソーシャルワーク	高齢者に関わる医療問題、延命や医療的処置、孤立化による家族不在の問題など、高齢者福祉における医療ソーシャルワーク実践を学ぶ
8	がん患者と医療ソーシャルワーク	現在のがん対策基本法下にあるがん医療状況と、医療ソーシャルワーカーの役割を考える
9	児童福祉と医療ソーシャルワーク	要保護児童対策、児童虐待対応、小児医療と医療ソーシャルワーク実践について学ぶ
10	貧困問題と医療ソーシャルワーク	ホームレスやネットカフェ難民、ひきこもりと老親同居、相対的貧困率の増加など、新たな貧困問題と医療ソーシャルワークの関わりを考察する
11	障害者福祉、難病施策と医療ソーシャルワーク	障害者虐待、障害者に対する医療、二次性障害の存在や難病患者の生活支援、遺伝と生殖医療にまつわる問題と医療ソーシャルワークについて考察する
12	退院支援と医療ソーシャルワーク	現代の医療ソーシャルワークの中心的課題となっている「退院支援」について、医療ソーシャルワークの視点と実践について考察する
13	地域包括ケアと医療ソーシャルワーク	地域包括ケアシステムの理解と医療ソーシャルワークが関わることの意義について考察する
14	労働災害等と医療ソーシャルワーク	労働災害や公害、薬害、肝炎問題など、社会的要因の関連の深い疾患と、医療ソーシャルワークの働きについて考察する
15	課題レポート発表、まとめ	医療福祉に関連する著作、患者・家族の闘病記、体験記を読み、そこに読み取れる「社会的問題」を考察し、レポートにまとめたものを発表し意見交換を行う

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	医療ソーシャルワーク演習		科目ナンバリング	SFFB23012
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）			

《授業の概要》

履修要件として、医療ソーシャルワーク論を単位修得し、相談援助実習において「医療機関」に配属され、実習評価を終えている学生を対象とする科目です。将来的に医療ソーシャルワーカーとして、キャリア形成を図ることを目的としています。実地演習として医療機関で一部行います。実際の事例を自ら素材として、現役の医療ソーシャルワーカーのサポートにより、授業内で活用し、技能の習得を図ります。

《授業の到達目標》

医療機関実習においては、社会福祉施設と異なり、ケアプランを通じて、利用者を直接担当することが困難です。したがって本科目では、実際のケースの支援プロセスを、面接の同席等シャドーイングさせていただき、それらから得た臨床の「素材」を元に、学内において学習、追体験し、医療ソーシャルワークに必要な視点、知識、技能について説明することができるようになることです。

《成績評価の方法》

- ・ 授業及び実地演習への参加状況や態度（40%）
（実地演習先より演習停止通告の場合、不可となります）
 - ・ ポートフォリオの内容（40%）
 - ・ 課題レポート（20%）
- 提出物についてはコメントをつけ返却する

《テキスト》

授業内において提示します。

《参考図書》

《授業時間外学習》

事前学習（30時間）、事後学修（30時間）も含め、実践的思考の習熟を図るため、地域医療機関に出向き、実地での演習を行います。基本的には、相談援助実習に行った医療機関を実地演習機関とします。

《備考》

集中講義10日間（内、実地演習5日間）（3月）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	演習の目的と実地演習の進め方について理解する（ポートフォリオ）
2	実地演習のための基本的知識	医療ソーシャルワーカー業務指針、地域医療連携及び地域包括ケアシステム、基本的な社会資源について要点をおさえる
3	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（実地演習医療機関の機能と医療ソーシャルワーカーの役割）
4	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースについての「準備」段階）
5	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースの面接場面の同席とシャドーイング）
6	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（対象ケースの面接場面の同席とシャドーイング）
7	実地演習	医療機関におけるソーシャルワークの実際（ケースの展開に応じた面談等支援プロセスの演習）について学ぶ（医療ソーシャルワーカーの具体的業務について）
8	実地演習の振り返りと整理	演習の素材となったケースについて、ケース概要、病態、社会資源、面接逐語記録等を授業教材としてまとめる。また、不明な点について調べる。
9	実地演習の振り返りと素材の活用	演習の素材となったケースについて、ケース概要、病態、社会資源、面接逐語記録等を授業教材としてまとめる。（ポートフォリオ作成による整理）
10	ケース検討による医療ソーシャルワークの視点	素材となったケース資料を元に、事例検討を行い、医療ソーシャルワーク支援の視点、介入の接点についてグループワークを行う（実地演習担当ワーカーの参加・指導）
11	ケース検討による医療ソーシャルワークの視点	素材となったケース資料を元に、事例検討を行い、医療ソーシャルワーク支援の視点、介入の接点についてグループワークを行う（実地演習担当ワーカーの参加・指導）
12	医療ソーシャルワーク面接の実際	作成した逐語録を元に、面接の展開について、ロールプレイを行う。コミュニケーションラボを用いて、面接技能を学ぶ
13	医療ソーシャルワーク面接の実際	作成した逐語録を元に、面接の展開について、ロールプレイを行う。コミュニケーションラボを用いて、面接技能を学ぶ
14	医療ソーシャルワークとコーディネート機能	チームアプローチとコーディネートについて、現役の医療ソーシャルワーカーによる事例を題材にディスカッションを行う
15	全体の振り返りとまとめ	振り返りと課題の抽出、次期にむけての目標の設定

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	福祉行財政と福祉計画		科目ナンバリング	SSPB23004	
担当者氏名	圓尾 辰夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） ○ 3-5 市民として専門家として自律的に学習を継続することができる（市民性・生涯学習力）				

《授業の概要》

受講者には、現実の社会において運用されている社会福祉のシステムの枠組みを、福祉を志す者の素養の一つとして身につけて欲しい。このため、社会福祉基礎構造の変遷の経過をたどりながら、社会福祉法と関係法の位置付けを中心に、我が国の福祉行財政や福祉計画について学習する。授業では、福祉行政に携わった経験からのエピソード等、内なる視点も交えていく。

《授業の到達目標》

- 1 自らが、社会福祉を考える際の基準の一つとして、現実福祉を動かしている福祉行財政や福祉計画の存在を正しく理解する。
- 2 自らが、社会福祉を考える際の基準の一つとして、現行の福祉行財政や福祉計画を批評できる目を養う。
- 3 自らが、社会福祉を实践するにあたって、福祉行財政や福祉計画に関与・参画していく方策を探る。

《成績評価の方法》

到達目標の1については試験を行い、2及び3についてはレポート提出とする。なお、評価の割合は、試験（60%）、レポート（40%）とする。また、授業への出席状況についても総合評価に反映させる。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座 10 福祉行財政と福祉計画 第4版

《参考図書》

《授業時間外学習》

テキストの記載内容は豊富であるので、授業前に関係部分を通読する等の準備を願いたい。

《備考》

テキストに加えて必要に応じプリントを配布する場合がある。また、各週の授業内容は講義の進捗状況により変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス（授業の目的等について）	当科目についての全体的な学習内容や、学習目的等について共通認識を持つ。
2	福祉行政と福祉計画 1	福祉の概念について整理したうえで、戦後70年間における社会福祉の法制度の展開について説明できる。
3	福祉行政と福祉計画 2	社会福祉における計画とは何かについて、福祉行政の実施体制と関連づけながら説明できる。
4	福祉行政の骨格と社会福祉の法制度	国と地方との関係を中心に、福祉行政の位置付けの変化や財政の仕組みとの関連について及び社会福祉における法や政省令等の関係について説明できる。
5	福祉行政の組織と社会福祉基礎構造	国や地方行政の組織を俯瞰したうえで、社会福祉法と社会福祉関係法によって成り立つ社会福祉基礎構造について説明できる。
6	福祉財政	福祉サービス供給のための財源を調達し、必要な支出をする福祉財政の基本や、地方財政主権への転換をめざす状況、民間社会福祉事業の財源等について説明できる。
7	福祉行政の組織・団体と専門職の役割	社会福祉基礎構造改革を踏まえ、社会福祉法や社会福祉関係法に規定されている国や地方公共団体、専門機関、地域に設置される相談システムの役割等について説明できる。
8	福祉計画の目的と意義	福祉制度の運用を円滑に行うための各種事業の実施手段としての計画の目的や意義を説明できる。
9	福祉計画の基本的視点と計画過程における留意点	計画策定における政策決定過程を担う者と計画実施過程を担う者の二類型の存在や、社会体制と社会計画の関係を踏まえ、計画の概念、プロセス等について説明できる。
10	福祉計画におけるニーズ把握と評価	福祉計画策定の原点というべきニーズ把握の技法、ニーズの概念、類型について説明でき、事後評価の技法や視点等についても説明できる。
11	福祉計画における住民参加	計画の実効性を高めるための、行為主体による関与、即ち、福祉関係者の合意形成の視点から、住民参加の意義について説明できる。
12	老人福祉計画・介護保険事業計画	福祉計画の実践編として、老人福祉計画、介護保険事業計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要を説明することができる。
13	障害者計画・障害福祉計画	福祉計画の実践編として、障害者計画・障害福祉計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要について説明できる。
14	次世代育成支援行動計画・地域福祉計画	福祉計画の実践編として、次世代育成支援行動計画・地域福祉計画を取り上げ、その歴史的経緯や概要について説明できる。
15	総括	全授業を通して学んだ事について振り返りを行い、福祉行財政や福祉計画に関与・参画していくことの意義について考える。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ		科目ナンバリング	SSPB13005
担当者氏名	和田 光徳			
授業方法	講義	単位・必選	4・必修	開講年次・開講期
				3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

相談援助の過程とそれに係る知識や技術について理解し、事例分析の意義や方法、相談援助の実際について学ぶ。特にソーシャルワーク理論の統合化と生活問題の多様性への対応から、求められる支援技術も。多様なアプローチ群として「支援レパートリー」と言われるようになった。ソーシャルワーク固有の価値と視点を多様なアプローチに適用していくことを理解する。

《授業の到達目標》

①相談援助の主要な理論、対象者、実践モデル、アプローチについて学ぶ。②相談援助の過程とそれに係る知識、技術、相談援助の実際について学ぶ。

《成績評価の方法》

- ①定期試験 60%
- ②授業内小テスト（採点后返却します） 40%

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座8『相談援助の理論と方法Ⅱ』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介する。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《備考》

教科書だけではなく、「専門書」を読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	①対象の理解、 ②グループワークの意義	①の定義と対象（個人・家族・集団・地域）のとらえ方について学ぶ、 ②グループワークの意義と、グループを活用した相談援助について学ぶ
2	①の技術、 ②事例研究・事例分析	①ケーススタディの意義と目的、運営と展開過程、評価について学ぶ、 ②事例研究・事例分析の意義と目的、方法と留意点について学ぶ
3	主要な実践モデル	①実践モデルとその意味、②治療モデル、生活モデル、社会モデルについて概要を学ぶ（特に生活モデル）
4	主要な実践モデルとアプローチ	ストレングスモデルとエンパワーメント・アプローチについて、それぞれの歴史的経過と概要について学ぶ
5	主要な実践アプローチⅠ	ソーシャルワーク実践におけるジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と理論の概要、展開について学ぶ
6	①問題解決アプローチ ②ハイサイソシアルモデル	やさからのジェネラリスト・アプローチの基礎援用理論である問題解決アプローチ、サビーのストレングス・モデル、発展的にサビーのハイサイソシアルモデルの概要と視点を学ぶ
7	主要アプローチの基礎理論	主要アプローチの基礎理論である精神分析、自我心理学、行動理論、家族システム論の概要について学ぶ
8	主要な実践アプローチⅡ	①心理社会アプローチ、ISTT（統合的短期型ソーシャルワーク）、②機能的アプローチ、③課題中心アプローチ、④危機介入アプローチの概要について学ぶ
9	主要な実践アプローチⅢ	行動変容アプローチ、家族療法、ナラティブアプローチ、その他のアプローチの理論と概要について学ぶ
10	ケースマネジメント	①ケースマネジメントの基本、②過程、③アセスメント、④ケアプランの作成・実施、⑤特徴、⑥ケースマネジメントとソーシャルワークの関係について学ぶ
11	個人情報保護と情報通信技術の活用	①相談援助における個人情報保護、相談援助における情報通信技術の活用について理解を深める
12	コーディネーションとネットワーク	①コーディネーションの目的と意義、②ネットワークの目的と意義を学ぶ
13	相談援助における社会資源の活用・調整・開発	①社会資源の活用・調整・開発の意義と目的、②社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点、③ソーシャルアクションによるシステムづくりについて理解を深める
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義と目的、方法と留意点、コンサルテーションとの関係について学ぶ
15	「支援レパートリー」の整理	相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ（ソーシャルワーク統合化理論と、支援技術として求められる「支援レパートリー」概念の関係について理解する）

科目名	相談援助演習 I B		科目ナンバリング	SSPB23006	
担当者氏名	和田 光徳、小林 茂				
授業方法	演習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 				

《授業の概要》

2年II期に行った相談援助演習IAを基礎に、ソーシャルワーク理論に基づいた展開過程を演習します。そのため、IAの単位修得が履修にあたっての先行条件となります。授業は事例やビネットを使用したグループ討議が中心になります。また、面接技術の基本技能について、授業内で反復練習（ロールプレイ等）します。

《テキスト》

- ・新・社会福祉士養成講座「社会福祉士相談援助演習 第2版」中央法規
- ・配布プリント

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ・ソーシャルワークの代表的なモデル（問題をどのようにとらえるかの範型）の概要を理解する。
- ・代表的なアプローチ（課題解決に向けての接近法）について基本を理解する。

《授業時間外学習》

新・社会福祉士養成講座「相談援助の理論と方法 I・II」（中央法規）を基本知識としています。理解しているものとして、学習を深めますので、テキストと合わせて再度講読し、予習・復習してください。

《成績評価の方法》

- ①グループワーク等授業への参加態度、意見の表明 40%
 - ②授業内小テスト（採点后返却します） 40%
 - ③中間課題レポート（採点后返却します） 20%
- 提出物等にはコメントを付し返却する。

《備考》

演習は自らが体験し、学びを深める授業です。したがって、出席し授業に積極的に参加・協力することが、通常講義より大きな評価基準となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助における面接の目的と特性	ソーシャルワークにおけるすべての支援技術の基本となる「面接」の目的と意義について学ぶ。（以後の授業内で適宜ロールプレー等を行います）
2	面接の基盤と基本的応答技法	ソーシャルワークにおけるすべての支援技術の基本となる「面接」技術の基礎と基本的応答技法について学ぶ。（以後の授業内で適宜ロールプレー等を行います）
3	ケースカンファレンスの方法	利用者の生活課題を実際的な解決に向けて、協働しながらアセスメント、プランニングを含む支援技術（グループワーク）を学ぶ。
4	ソーシャルワークの主要なモデル①	ライフモデル（エコロジカルアプローチ）による支援プロセスを学び、ビネットによる演習とグループワークにより支援の範型を理解する。
5	ソーシャルワークの主要なモデル②	ストレングスマodel、エンパワメント・アプローチの概略を学び、ビネットによる演習とグループワークにより、支援の範型を理解する。
6	ソーシャルワークの主要なアプローチ	ジェネラリスト・アプローチ（Johnson & Yancaのものを中心に）の理論の枠組みを学び、支援プロセスの要点を、ビネット、事例を通じて学ぶ。
7	中間の振り返り、主要なアプローチ	コンピテンシー評価を行う。ジェネラリスト・アプローチの基本的枠組みとなっている「問題解決アプローチ」について、その源流であるパルマンについて学ぶ。
8	アプローチの基礎理論	精神分析と自我心理学、行動理論、家族システム理論の概要を学び、支援プロセスの一端を演習する。
9	心理社会アプローチについて	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
10	行動変容、家族システムとナラティブ	講義と、ビネット・事例を使用した演習（グループワーク）を通じて、面接場面での具体的応答を学ぶ。
11	ケアマネジメント（要支援、要介護者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
12	ケアマネジメント（障害者）	事例を通じ、ケアマネジメント手法によるアセスメントから支援計画（ケアプラン）の作成を試みる。グループ討議と発表を行う。
13	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域におけるサービス提供やネットワークワーキングの支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
14	地域を基盤とした実践展開	マイクロ・メゾ・マクロをつらぬく支援の視点をおさえながら、地域におけるサービス提供やネットワークワーキングの支援活動を事例による演習（グループワーク）で学ぶ。
15	振り返り・本実習に向けて	コンピテンシー評価を行う。対人支援技能として共通する「傾聴技能」を再確認するとともに、観察、アセスメント、計画の支援過程を確認する。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助演習Ⅱ	科目ナンバリング	SSPB23007
担当者氏名	小倉 毅、小林 茂		
授業方法	演習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー）		

《授業の概要》

本科目はこれまで学んできた社会サービスと相談援助技術の演習、相談援助実習を通じて具体的な支援に結び付けられるよう講義、事例研究、グループ討議、ロールプレイ、ディベートを使って体得することを目的としている。

《テキスト》

[編集]白澤正和・福山和女・石川久展[監修]社団法人日本社会福祉士養成協会『社会福祉士相談援助演習』中央法規出版 ISBN-978-4-8058-3124-3

《参考図書》

授業内で指示をします。

《授業の到達目標》

将来の社会福祉専門職としての必要な実践力を基礎を習得する
 ・ケアマネジメントを用いた支援を組み立てることができる。
 ・メゾ領域における支援計画を立てることができる。
 ・マクロ領域における支援計画を立てることができる。
 ・実習終了後の学びを深めるため、理論と実践の関係を理解する。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法
 新聞やニュース等で取り上げられた社会問題に関心をもって下さい。
 (2) 復習の方法
 授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

演習は、毎回出席が原則である。課題・レポート（20%）演習態度（30%）、学期末に事例に基づいてニーズの把握、アセスメント、支援計画を作成し評価する（50%）
 なお、毎回振り返りシートを提出してもらいます。
 提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

演習は、事例を活用したグループ討議、ロールプレイ、プレゼンテーション、ディベートです。ソーシャルワーカーの力量を培うために参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、演習に参加する意義と目的を理解し、授業の進め方について説明する。
2	社会問題を基盤とした相談援助演習①	社会的排除に関するソーシャルワークを学ぶ。
3	社会問題を基盤とした相談援助演習②	ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てたソーシャルワークを学ぶ。
4	社会問題を基盤とした相談援助演習③	就労支援（障害者・母子）に関するソーシャルワークを学ぶ。
5	社会問題を基盤とした相談援助演習④	病院からの退院に関するソーシャルワークを学ぶ。
6	社会問題を基盤とした相談援助演習⑤	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス：DV）に関するソーシャルワークを学ぶ。
7	社会問題を基盤とした相談援助演習⑥	虐待（高齢者）へのソーシャルワークを学ぶ。
8	社会問題を基盤とした相談援助演習⑦	虐待（児童）へのソーシャルワークを学ぶ。
9	対象別にみた相談援助演習①	低所得者へのソーシャルワークを学ぶ。
10	対象別にみた相談援助演習②	高齢者（認知症・要介護）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
11	対象別にみた相談援助演習③	障害者（身体障害・知的障害・発達障害）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
12	対象別にみた相談援助演習④	児童（児童養護施設入所）とその家族へのソーシャルワークを学ぶ。
13	地域福祉活動について	地域福祉計画・地域福祉活動計画を行政と社会福祉協議会とで協同して策定する方法を学ぶ。
14	利用者との関わりからの学びを活かす①	実習中に利用者や職員と関わった場面（プロセスレコード）を再現し、よりよい関わりや支援について考察する。
15	利用者との関わりからの学びを活かす②	利用者を理解するために、ニーズの把握、アセスメント（ケアプラン）について、実習での学びを共有し理解を深める。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	小倉 毅、和田 光徳、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲの前半部分では、相談援助実習の実習計画書の作成と実習先での学習のため、これまで学んだ知識を実践の現場で生かすことができるよう準備を行います。準備としては、実習先について調べることで、実習先での相談援助で用いられるツールを確認することなど、相談援助に携わる者として必要な知識、技術を学ぶことなどが含まれます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

相談援助実習における到達目標（実習目標）と4～5週間に及ぶ実習における、各週での実習の目標、それを達するために実習で行う内容などの詳細な実習計画書を作成することが到達目標です。また相談援助実習において支援を行うためのアセスメントシートや支援計画書などの実習支援に係るツールについても理解をすることができるようになります。

《授業時間外学習》

実習計画書の作成のためには、実習先の周辺地域に関する踏査や相談援助に関する技術について調べるなどが必要になります。これらはいずれも時間外での学習になります。詳細については授業時間中に指示をします。

《成績評価の方法》

①授業を受ける態度 グループワークでの発言等の状況（20%） ②小テスト 実習先で必要な専門用語、法律等に関する内容（40%） ③実習計画書の内容（40%） 提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

支援者としての自覚とその基盤となる知識、福祉の理解が十分ではないと教員が判断した場合、相談援助実習に赴くことはできません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助実習に向けて	相談援助基礎実習の振り返りと、相談援助実習指導Ⅲの位置づけ、実習前教育に必要な内容の概略を理解する。実習計画書の構成、目的を学びます。
2	実習先の理解①	配属先での相談業務（相談面接・援助計画）と実際に行われる支援方法について、法制度などを含めて理解する。
3	実習先の理解②	配属先での相談業務（苦情解決・権利擁護）と立地状況（現地調査に必要な項目）について理解します。
4	実習先の理解③	配属先の相談業務（ネットワーク・地域援助）と、周辺環境について理解します。
5	実習計画の作成①	実習先の状況、及び実習先で学ぶことを踏まえ、巡回担当者との相談を行いながら、各週、日々の目標を作成、それを実現するための実習内容の構成を考える。
6	実習計画書の作成②	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、各週、日々の目標と実習内容の構成を考え、実現可能な計画を組立てます。実習目標についても考える。
7	実習計画書の作成③	引き続き、巡回担当者とも相談をしながら、詳細な実習計画書を作成します。実習の成果としての実習目標、目標を達成するための課題を立案する。
8	実習先の事前訪問について①	事前訪問の重要性について「アクセスノート」を活用して理解する。また、訪問にあたっての一般的マナーについて理解する。（実習先への通勤時の学生割引など）
9	実習先の事前訪問について②	事前訪問の内容確認と実習計画の調整（目標・計画等の修正・事前課題・健康診断等の提出物確認など）について理解をします。
10	実習記録ノートの書き方の理解①	実習日誌の書き方の理解と、取扱い等に関する説明を行う。
11	実習記録ノートの書き方の理解①	実習日誌の書き方（日誌での表現の方法を含む）について学び、実習巡回や帰校日指導の意味について理解する。
12	巡回指導の理解	事前訪問の結果を踏まえ、実習計画書を見直す。また、巡回担当者とも相談をしながら実習計画書を確定し、実習巡回日などの調整を行う。
13	倫理・守秘義務の理解	個人のプライバシー保護について学びます。また実習先での個人情報の取り扱いや注意すべき内容について理解する。
14	相談援助実習に向けて	実習期間中の緊急時対応（保険、注意事項、評価方法、契約構造等）、心身の健康等を守るために必要なことを理解する。
15	実習知識・能力評価学習について	相談援助実習を通しての支援の成果を表現するアセスメントシートや支援計画書作成の確認、さらに専門知識の再確認を行う。

科目名	相談援助実習指導Ⅲ		科目ナンバリング	SSWB23008	
担当者氏名	小倉 毅、和田 光徳、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる (分析力、プレゼンテーション力) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる (倫理性) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合)				

《授業の概要》

相談援助実習指導Ⅲ(Ⅱ期)は相談援助実習の振り返りを行います。実習先の概要、制度的背景、利用者や家族、職員との関わりから、ソーシャルワーカーの役割を振り返り整理をします。またグループワークの場で他者と実践内容の討議を行う中で、様々なアプローチの方法や利用者理解の視点などを理解します。これらを踏まえ実習報告書を作成、途中で行う実習報告会での指摘などを踏まえ、報告書を完成させます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会(監修)、長谷川匠俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習(第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業の到達目標》

相談援助実習を振り返る中で、利用者支援やソーシャルワーカーの役割・業務、専門職連携の重要性を認識し身につけます。これらの振り返りの中でソーシャルワーカーとしての自覚を養い、ケアマネジメント力を理解します。さらに、客観的に実習を見直すことで、今後の学習の課題や進路を考えるとともに、求められる社会福祉士像を明確にします。

《授業時間外学習》

実習報告書の作成、実習報告会の準備等は授業時間内だけでは終わることが難しく、時間外を大いに活用することになるでしょう。実習先への確認のための問い合わせや再度の訪問も必要になるかもしれません。

《成績評価の方法》

実習の記録の整理状況、実習報告会の準備、グループワークでの役割、授業内で課すレポート、実習報告会での報告内容、実習報告書による分析を含めた総合点で評価をします(100点) 提出物についてはコメントを付して返却する。

《備考》

- ①実習報告会の日程、実習報告書の作成の期限等については、平成29年度中に提示します。
- ②グループワークを行いますので、原則遅刻は認めません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助実習を終えて	実習先に提出する書類等(日数・時間数・欠席等の確認)、お礼状の確認を行います。
2	実習振り返りにおけるグループ学習①	実習日誌やアセスメントシート等の記録を点検・整理(訂正と追記)し、必要な追学習を行い、また実習計画を踏まえて学びの確認を行う。
3	実習振り返りにおけるグループ学習②	グループワークにより、実習先での体験を共有し、実習目標の達成度・充実度を確認する。施設先や実習目標の違う学生の実習経験をもとに課題の確認を行う。
4	実習振り返りにおけるグループ学習③	グループワークにより、実習先での体験を共有し、学びの価値や揺らぎ、自己覚知などの再確認を行う。
5	実習振り返りにおけるグループ学習④	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出す。
6	実習振り返りにおけるグループ学習⑤	専門職として求められる価値や倫理を挙げ、共有、種類別に整理し、実習でのジレンマなどを越えるための解決法をグループワークで見出す。
7	実習振り返りにおけるグループ学習⑥	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行う。
8	実習振り返りにおけるグループ学習⑦	実習の成果を制度的背景や学んだスキル、価値から評価、分析します。その際には、グループワークで明らかにした各分野での課題などを踏まえて行う。
9	実習振り返りにおけるグループ学習⑧	自己評価と指導者評価を見比べ、今後の学習課題の確認と実習報告書のテーマを決める。
10	実習報告書の作成①	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
11	実習報告書の作成②	実習の成果、分析、評価及び、グループワークによるジレンマの克服などを通しソーシャルワーカーとしての自覚に至る過程などを踏まえ実習報告書を作成します。
12	実習報告書の作成③	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言などを行う。
13	実習報告書の作成④	実習先に対する評価や実習プログラムに対する評価など、客観的な視点から実習を振り返り、提言などを行う。
14	実習報告会の準備①	実習報告会の準備を行う。実習成果とその分析や評価の内容について報告できるよう資料の作成を行う。
15	実習報告会の準備②	実習報告会に向けて実習成果と評価等の再確認を行い、実習指導者や教員からの質問、指摘に応えることのできるよう準備を行う。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習	科目ナンバリング	SSWB23009
担当者氏名	田端 和彦、吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、小林 茂		
授業方法	実習	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる（自己管理能力） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 		

《授業の概要》

180時間の社会福祉現場での実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会（監修）、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習（第2版）」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し得する第一歩を踏み出すことができます。

《授業時間外学習》

実習は主に長期休暇期間（授業時間外）中に行います。また実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握します。関係する法規を読んでおき、授業で学習し必要と思われる事項は繰り返しの復習が必要です。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解しなければなりません。

《成績評価の方法》

学科が定める「相談援助実習」取り扱い事項に従い、実習施設、巡回指導教員、単位認定者による評価に基づき総合的にを行います。

《備考》

相談援助実習指導Ⅲでの事前、事後指導と連動します。実習の実施にあたっては、学科の定める「相談援助実習」取り扱い事項に従います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的コミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者や家族のエンパワメント実践の理解	利用者や家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	相談援助実習		科目ナンバリング	SSWB23009	
担当者氏名	田端 和彦、吉原 恵子、竹内 一夫、和田 光徳、小倉 毅、小林 茂				
授業方法	実習	単位・必選	4・選択	開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度 (社会的責任) ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる (地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合) 				

《授業の概要》

(通年授業のためⅠ期と同じことが記されています)。180時間の社会福祉現場での実習を行います。その中で、施設の機能、利用者とその家族を理解し、職員やソーシャルワーカーとの関係や実践を通して支援の必要性を実感し、アプローチの方法等を学びます。色々な支援の場面で気づいたことを記録し、分析し、スーパーバイザーの指示や意見を受け止め、実践の場面での支援のあり方を修正しながら実習を進めます。

《授業の到達目標》

実践を通して、習得してきた知識や技術とを統合し、現場のソーシャルワーカーとしての姿勢・価値・理論を培い、必要に応じて活用する力を身につけることができます。同時に、利用者の姿や福祉を担う施設や従事者の実践活動、その運営や経営実態を知ることで、社会福祉施設における専門職の要としての役割を理解し体得する第一歩を踏み出すことができます。

《成績評価の方法》

学科が定める「相談援助実習」取り扱い事項に従い、実習施設、巡回指導教員、単位認定者による評価に基づき総合的にを行います。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業の中で指示をします。

《授業時間外学習》

実習は主に長期休暇期間 (授業時間外) 中に行います。また実習先の特性や周辺にある社会資源の分布状況などを事前踏査で把握します。関係する法規を読んでおき、授業で学習し必要と思われる事項は繰り返しの復習が必要です。社会福祉士の倫理綱領や実習先施設の概要なども事前に読んで理解しなければなりません。

《備考》

相談援助実習指導Ⅲでの事前、事後指導と連動します。実習の実施にあたっては、学科の定める「相談援助実習」取り扱い事項に従います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習先の概要についての理解	実習先の業務内容と施設の方針、職員の役割や配置、建物の概要、関連施設などについて、説明を受け、理解をします。
2	実習先の組織についての理解	施設に係る法的根拠や支出・収入を含む経営状況、運営や意思決定、業務日誌等の日常用いられる文書様式について説明を受ける等で学びます。
3	基本的なコミュニケーションの理解	職員や利用者、家族、住民と接する中で挨拶、自己紹介を行うなど基本的なコミュニケーションを取り、関わり方を学びます。
4	言語的・非言語的コミュニケーションの理解	対応が難しい利用者等へ関わる中で、言語的、非言語的コミュニケーションの取り方を理解し、利用者個々に合致する円滑な関係形成の方法を学びます。
5	支援等を通しての利用者の理解	日常的な利用者の行動や施設職員と利用者との関わりを観察したり、カルテや支援計画等を閲覧することにより心身的特徴について分析し、利用者理解を深めます。
6	社会福祉士の職種・倫理の理解	実習指導者など社会福祉士の業務に同行することから、社会福祉士の職種を学び、倫理に基づく判断を理解し、実習中に感じたディレンマを分析します。
7	職員の業務を踏まえての施設運営の理解	施設職員の役割と業務を踏まえてのチームアプローチの意義やケースカンファレンスなどの会議の運営や社会福祉士の役割などを参加や観察を通して学びます。
8	利用者との援助関係の形成についての理解	援助関係形成を意識して利用者に関わるとともに、社会福祉士による面接を観察するなどにより面接技法について学びます。個人情報保護についても学びましょう。
9	施設のある地域の理解	地域にある施設や住民組織が参加する会議や行事に参加することなどを通して地域に存する社会資源について学びましょう。
10	地域への働きかけについての理解	地域の方や学校、家族によるボランティア活動への関与を通し、地域の組織化、当事者グループの形成などについて理解をしましょう。
11	アセスメントシートについての理解	利用者や家族へのアセスメントとニーズ把握の方法を理解するために、アセスメント・シートの構造や使用方法を学びましょう。
12	利用者や家族のエンパワメント実践の理解	利用者や家族との関係性を明らかにするエコマップやジェノグラムを学び、権利擁護を踏まえて、利用者のエンパワメントの方法を理解しましょう。
13	アセスメントの実践	担当する利用者へのアセスメントを行い、利用者や家族が抱える課題を把握し、ニーズを確定しましょう。
14	個別支援計画の策定①	利用者のアセスメントやニーズに基づき、支援目標、支援計画を作成しましょう。
15	個別支援計画の策定②	個別支援計画について、カンファレンスでの検討を行うとともに、計画に従っての実践とモニタリングを行いましょう。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	専門ゼミナール I	科目ナンバリング	SFFB13010
担当者氏名	田端 和彦、原 志津、光田 豊茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる (統計分析力) ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる (人に働きかける力) 		

《授業の概要》

4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。教員の指導に従い、基本的な文献の読解や研究手法の学習などに取り組みます。これらを用いて、研究課題の設定、課題に即しての仮説の作成のための文献の読解、調査の方法を考えることができるようにする基礎的な学びになります。なお授業の進め方、専門ゼミへの配属等については、別途指示をします。

《授業の到達目標》

授業の進め方や指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナール I と II を通し、ソーシャルワークの専門職として学問に臨み、実践と理論とを結ぶために必要な態度を身に付けることが到達目標となります。具体的には、基本となる文献等の読解を通し、課題を見出すことや、現状を分析するための調査や分析方法を理解し、直面する問題に対して応用することが可能になります。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業時間外学習》

文献の講読や調査、発表等の準備は、時間外に行います。指導に従ってください。また実際の調査なども授業時間外に行うこととなります。

《備考》

専門ゼミナール (ゼミ) は6~10人での少人数での指導が中心です。教員やゼミ仲間 (ゼミ生) とともに学び合うこととなります。共同ゼミの場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門ゼミに関するガイダンス	専門ゼミで学ぶ意義、ソーシャルワークの国際定義に示される学問としてのソーシャルワークの意味について学びます。そして専門ゼミへの配属について説明をします。
2	授業概要と授業計画	授業の概要の説明を受けるとともに、今後の計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
3	専門に関わる基礎学習について	学習方針、計画に基づき学習を進めます。第4週目以降に記載された学習内容は一般に専門ゼミで学ぶ手法を示しています。実際の学習の進みと異なる場合があります。
4	基本文献の輪読①	社会福祉、現代社会等に関する基本的な文献を購入、ゼミ生が担当する範囲について読み込み、関連する内容などを調べてレジュメ (要約) を作成します。(続く)
5	基本文献の輪読②	基本文献を一度を読んだだけでその内容を把握することはできないでしょう。担当者は自分が説明できるよう繰り返し読み込み、判らない箇所は調べます。(続く)
6	基本文献の輪読③	レジュメを基に他のゼミ生の前で報告をします。基本文献について他のゼミ生も事前にその週で進む範囲を読んでおくこと (事前学習) が必要になります。(続く)
7	基本文献の輪読④	担当者がレジュメを基に報告したことに対し、教員や他のゼミ生が質問や意見を述べ、担当者が応えます。欠席は他のゼミ生にも迷惑を掛けることとなります。(続く)
8	基本文献の輪読⑤	基本文献の輪読はゼミ生で共通の基盤を作ること、及び学問についての基礎固めのために行います。
9	調査・分析の基礎①	調査・分析の方法を学びます。アンケート調査、聞き取り調査、観察調査、公的統計分析、文献の読み込み、歴史の検証、実験等が学問を進める上で必要です。(続く)
10	調査・分析の基礎②	アンケート調査では、テーマに基づく対象者の選定と母集団からの抽出、調査票の作成、抽出・回収を含む調査の実施、データ入力、統計分析の手法を学びます。(続く)
11	調査・分析の基礎③	聞き取り調査、観察調査では、テーマに基づく対象 (者、場所等) の選定、調査依頼、調査項目の決定、調査の実施、質的データの整理と分析の手法を学びます。(続く)
12	調査・分析の基礎④	公的統計分析は、政府・地方公共団体等の行った統計調査の結果をテーマに合わせて分析することで、統計種類、製表、多変量解析等の統計分析の手法を学びます。(続く)
13	調査・分析の基礎⑤	文献の読み込みとは、テーマに関連する文献 (論文) を広く収集し読み込み、相互の関連を調べ、一定の方向を見出します。文献の収集方法などを学びます。(続く)
14	調査・分析の基礎⑥	歴史の検証は、文献に表れる特定の人物・組織・事実が歴史での役割を明らかにすることで、文献の読み込み、聞き取り調査などの手法を歴史文書にも応用します。(続く)
15	調査・分析の基礎⑦	実験は心理実験と社会実験です。心理実験は人を対象に、社会実験は社会を対象に条件を変更して、入力に対する出力を測定することです。

《専門教育科目 相談援助共通科目》

科目名	専門ゼミナールⅡ	科目ナンバリング	SFFB13011
担当者氏名	田端 和彦、原 志津、光田 豊茂		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） 		

《授業の概要》

専門ゼミナールⅠに引き続き、4年生での卒業論文を執筆を目指して、2年間の卒業研究に取り組みます。後半では主に、基本的な文献の読解や研究手法の学習を踏まえて、研究課題を設定し、その課題に即しての仮説の作成のための文献の読解、調査法の選定と予備調査などを行います。

《テキスト》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《参考図書》

指導にあたる教員の指示に従ってください。

《授業の到達目標》

授業の進め方や指導にあたる教員により違いもありますが、専門ゼミナールⅠとⅡを通し、ソーシャルワークの専門職として学問に臨み、実践と理論とを結ぶために必要な態度を身に付けることが到達目標となります。具体的には、基本となる文献等の読解を通し、課題を見出すことや、現状を分析するための調査や分析方法を理解し、直面する問題に対して応用することが可能になります。

《授業時間外学習》

文献の講読や調査、発表等の準備は、時間外に行います。指導に従ってください。また実際の調査なども授業時間外に行うこととなります。

《成績評価の方法》

指導にあたる教員により違いもありますが、原則としては日常的な学習態度、課される課題への対応状況などが評価の対象となります。

《備考》

専門ゼミナール（ゼミ）は6～10人での少人数での指導が中心です。教員やゼミ仲間（ゼミ生）とともに学び合うこととなります。共同ゼミの場合もあります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	専門ゼミに関するガイダンス	配属されたゼミで研究課題について説明します。課題はゼミ生個人で取り組む場合とゼミ内でグループ取り組む場合があります。指導教員の指示に従ってください。
2	授業概要と授業計画	今後の計画や日程、今後の学習の方針などについて教員やゼミ生とともに検討をします。
3	取り組む研究課題について	取り組む研究課題を指導教員から与えられる場合とゼミ生が提示する場合があります。第4週～第8週まで、ゼミ生が研究課題を提示したり見出すための方法を記載します。
4	研究課題の提示①	関心ある大きな課題（例：貧困）から絞る方法です。その課題に関連する課題・キーワード（子どもの貧困、相対的貧困率等）を周囲に展開させ鳥瞰図を描きます。（続
5	研究課題の提示②	鳥瞰図を見て相互の関連を踏まえながら研究課題を抽出します。課題を絞り込むとともに、思い付きではなくなぜその課題を選ぶかが明確になる方法です。（続く）
6	研究課題の提示③	逆に、実習など自分の小さな経験を発展させる方法もあります。経験の中で一般化できる研究課題であるかを指導教員など第三者と協議をする中で見出します。（続く）
7	研究課題の提示④	関心ある課題で過去の研究を集めます。指導教員の研究やこれまでの卒業研究もその対象となります。その研究を異なる分野や異なる対象に応用します。（続く）
8	研究課題の提示⑤	以上のように、（1）大きな課題から絞り込む方法、（2）小さな気付きから発展させる方法、（3）過去の研究を応用する方法、はグループワークでも可能です。
9	関連文献の検索と読み込み①	研究課題が決まれば、関連文献を検索し読み込みます。読んだ文献の内容をカード（電子的なものでもよい）にまとめます。そのまま卒論に使うことができます。（続く）
10	関連文献の検索と読み込み②	関連文献には日本語文献だけではなく、他言語の文献も忘れずに検索しましょう。作成したカードは、関連させながら仮説を作成する際に使用します。（続く）
11	関連文献の検索と読み込み③	読みこんだ文献の内容をゼミで報告します。指導教員やゼミ生の意見を聞きながら、仮説の作成を考えましょう。
12	仮説の作成と卒業研究の準備①	読み込んだ文献を踏まえ、研究課題を検証するための仮説を作成します。しっかりした仮説を立てることが研究を成功に導きます。（続く）
13	仮説の作成と卒業研究の準備②	仮説は独自性、新規性があるものが望まれます。読み込んだ文献には無かった内容が仮説に繋がります。文献を読むほどしっかりした仮説を立てられます。（続く）
14	仮説の作成と卒業研究の準備③	ソーシャルワークが実践的な学問であるため、仮説は具体的な行動に結び付くものがよいでしょう。仮説を立てるには経験が重要です。指導教員とよく話し合ひましょう。
15	卒業研究の準備	卒業研究への準備は大丈夫でしょうか。全員で互いに確かめます。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	就労支援サービス		科目ナンバリング	SSWC23012	
担当者氏名	小出 享一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

労働を取り巻く現状を踏まえたうえで、障害者および低所得者への就労支援に関する法律・制度を理解し、事例を通してその実際を学ぶ。授業ではテキストのほか、新聞記事、DVDなども活用する。また障害者の就労支援に実際に関わっているソーシャルワーカーにゲストスピーカーで来てもらい、話しをしてもらう予定である。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座18『就労支援サービス』（中央法規出版）

《参考図書》

参考図書は授業時にその都度、紹介したい。

《授業の到達目標》

①障害者および低所得者への就労支援に関する法律・制度を理解する。②就労支援に関わる組織・団体・専門職について理解する。

《授業時間外学習》

社会福祉は、その時々々の政治、社会、経済のあり方や状況によって、変化し、動く。法律・制度や福祉サービスはその影響を受けることが多い。新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどの情報を活用して、社会の動向などに注目しておいてほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験、出席によって評価する。（出席重視）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	障がいを持って生きるということ（自己紹介と授業の進めたかたについて）
2	労働の意味と社会福祉士	①労働の意味、②日本の労働問題、③社会福祉士と就労支援
3	現代の労働を取り巻く状況	①労働市場の変化、②労働に関する法律と制度
4	障害者と就労支援①	①障害者就労の現状、②障害者福祉施策における就労支援、障害者雇用施策における就労支援
5	障害者と就労支援②	④専門職の役割、⑤民間の取り組み、③諸外国の取り組み
6	障害者と就労支援③	障害者の就労支援に携わるゲストスピーカーの話し
7	低所得者と就労支援①	①支援の対象像、②低所得者の就労の現状、③就労支援制度、
8	低所得者と就労支援②	④組織・団体の役割、⑤専門職の役割、⑥今後の展望
9	連携・ネットワーキング①	①就労支援とケアマネジメント、②就労支援とネットワーク
10	連携・ネットワーキング②	③連携・ネットワーキングの実際
11	さまざまな働き方の支援	ワーキングプアなどの対応
12	社会起業	障害者と社会起業
13	事例①	障害者の就労支援事例
14	事例②	低所得者の就労支援事例
15	まとめ	就労支援サービスのまとめと社会福祉士国家試験の対策について

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	更生保護制度		科目ナンバリング	SSWC24005	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） 			

《授業の概要》

更生保護制度は「犯罪をした者及び非行のある少年に対し、社会内において適切な処遇を行うことにより、再び犯罪をすることを防ぎ、又はその非行をなくし、これらの者が社会の一員として自立し、改善更生することを助けること」が、その目的である。その具体的な制度の内容や、それに携わる人達の働きについて講義する。（より実際的な業務を理解するために、その業務に携わる職員をゲスト講師として招く予定です。）

《授業の到達目標》

更生保護制度の概要を把握し、この制度の目的を果たすために働いている保護観察官や保護司等の業務やその役割が理解できる。それと共に、これに関係する諸機関、更生保護施設等の役割についても理解できる。

《成績評価の方法》

授業への取り組み・コメント内容（60%）
レポート課題に対する取り組み（40%）
※レポートにはコメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座20『更生保護制度』第4版（社会福祉士養成講座編集委員会）、中央法規出版、2017

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしており、疑問点等があれば次回授業に質問すること。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。
8週の授業計画です。必要授業時間数=(90分×7週) + 45分

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	更生保護制度の概要	刑事司法の中の更生保護の果たす役割やこれまでの歴史、位置づけについて理解する。
2	仮釈放等の制度	仮釈放等の制度の流れと更生保護委員会・保護観察所の業務とその役割について理解する。
3	保護観察	保護観察の目的、方法とその担い手である保護観察官・保護司の業務とその役割について理解する。
4	保護観察の実際	更生保護制度の担い手である保護観察官の仕事の実際を理解する。（ゲスト講師予定）
5	更生保護制度の担い手	更生保護制度の担い手として、保護司、更生保護施設、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主等の多くの民間ボランティアが活動やその役割について理解する。
6	地域生活定着支援センターの役割	高齢者や障害を抱える自立困難な刑務所出所者等に対する社会復帰の支援内容や、それに携わる支援者のかかわりについて理解する。（ゲスト講師予定）
7	医療観察制度	医療観察制度における処遇の流れと、その中で果たす社会復帰調整官の業務とその役割について理解する。（ゲスト講師予定）
8	まとめ	更生保護制度の全体の流れをもう一度確認して、本制度の役割について理解する。
9	—	—
10	—	—
11	—	—
12	—	—
13	—	—
14	—	—
15	—	—

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	福祉サービスの組織と経営		科目ナンバリング	SSWC24006	
担当者氏名	小林 茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） <input type="radio"/> 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

社会福祉サービスを提供する組織とはどのようなものか。また、それを経営するために何が必要で、どのような方法で展開されているのかを理解し、その知識を学ぶ。加えて社会福祉士としてその知識を活用で切る実力を養う。

《テキスト》

「新・社会福祉士養成講座11 福祉サービスの組織と経営（第4版）」社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版
 適時、補助教材を配布する

《参考図書》

福祉小六法
 「非営利組織の経営—原理と実践—」 P. F. ドラッカー著 ダイアモンド社 1991年

《授業の到達目標》

1. 福祉サービスにかかる組織や団体について理解する。
2. 福祉サービスの組織と経営にかかわる基礎理論について理解する。
3. 福祉サービスの経理と管理運営について理解する。

《授業時間外学習》

1. 予習方法：事前にテキスト該当する章を読んでおくこと
2. 復習方法：授業配布プリントなどを再整理し、不明な点を整理し、次回授業で質問する事。
3. その他：各分野の社会福祉制度および事業については事前に復習しておくこと

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 10%
- (2) 課題レポート 25% (提出遅れは減点)
- (3) 定期試験 65%
 ※レポートには採点后コメントを付して返却する

《備考》

授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
 社会福祉士国家試験科目であるため、授業で試験問題を取り上げることがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉サービスにおける組織と経営	福祉サービスの特性を学ぶとともに福祉サービス提供組織の特性を学ぶ。また、組織経営とはどのような事かを理解する。
2	福祉サービスに係る組織や団体（1）	法人とは何かを学ぶとともに、福祉サービス提供組織の一つである社会福祉法人の特性と経営原則を理解する
3	福祉サービスに係る組織や団体（2）	特定非営利活動法人の組織特性と経営原則を理解する
4	福祉サービスに係る組織や団体（3）	その他、福祉サービス提供組織の種類とそれぞれの特性を理解する
5	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（1）	福祉サービスの提供組織の「経営戦略」と「事業計画」に関する基本的考え方を理解する
6	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（2）	「組織」および「管理運営」の基礎理論を学び理解する
7	福祉サービスの組織kと経営の基礎理論（3）	組織経営をするための基礎理論である「集団力学」「リーダーシップ」を学び、理解する。
8	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理①	「サービスマネジメント」について学び、理解する
9	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理②	サービスの質の向上を図るための評価システム、改善方策について学び、理解する。
10	福祉サービスの管理運営方法Ⅰ サービス管理③	「苦情対応とリスクマネジメント」及び「サービス提供のあり方の方向性」について学び、理解する。
11	福祉サービスの管理運営方法Ⅱ 人事労務管理①	「人事・労務管理」の仕組みおよび管理方法について学び、理解する。
12	福祉サービスの管理運営方法Ⅱ 人事労務管理②	「人材育成」の意義と人材育成の方法について学び、理解する。
13	福祉サービスの管理運営方法Ⅲ 会計・財務管理	社会福祉法人を中心にした「会計管理」と「財務管理」について学び、理解する。
14	福祉サービスの管理運営方法Ⅳ 情報管理	「情報管理」および「戦略的広報」について学び、理解する
15	福祉サービス提供組織の経営の実際	これまでの学んできた経営理論が実際の現場ではどのように行われているかを、事例などを通して学び、福祉サービス提供組織経営の概要について説明できる。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	心理検査法	科目ナンバリング	SFFC23013
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

福祉の現場に出て行った時利用者さんに関する心理検査のデータや情報等をケースワークに活かすため知っておくと役に立つ「心理検査」について学ぶ。体験・実習した心理検査については自己理解を深めるためにも有効である。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

心理検査の理論と実際 第IV版 花沢・佐藤・大村著
 駿河台出版社 2800円

《授業の到達目標》

知能・発達テスト、人格検査・性格検査・パーソナリティテストを体験・理解し、自己理解・他者理解を深める。

《授業時間外学習》

配布された資料は、きちんとファイルに閉じて自宅をよく読みこんでくること。

《成績評価の方法》

受講態度30% 数回のレポート30% まとめのレポート40%
 提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

同日に連続で開講する「臨床心理学」とあわせて履修が望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉の現場や医療の現場で使用される心理検査をソーシャルワーカーがいかに関活用するかを知る
2	パーソナリティテスト	自己理解を深めるためのパーソナリティテストの体験を行う
3	子どもの現場で使用される心理検査①	児童相談所で使用される発達検査について知る
4	子どもの現場で使用される心理検査②	児童相談所で使用される心理検査と社会生活能力検査について知る
5	子どもの現場で使用される心理検査③	描画テストについて・・・バウムテストを学ぶ
6	子どもの現場で使用される心理検査④	描画テストについて・・・風景構成法を学ぶ
7	病院で使用される心理テスト①	インテークに必要な心理テストについて知る
8	病院で使用される心理テスト②	インテークに必要な心理テストについて知る
9	病院で使用される心理テスト③	投影法①を体験する
10	病院で使用される心理テスト④	投影法②を体験する
11	病院で使用される心理テスト⑤	投影法③を体験する
12	病院で使用される心理テスト⑥	投影法④を体験する
13	親子関係を知るテスト	親子関係テスト実習を行う
14	高齢者のための心理テスト	高齢者のための心理テストを知る
15	まとめ	この授業をふりかえりレポートにまとめて自己理解を深める

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	臨床心理学	科目ナンバリング	SFFC23014
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

臨床心理学とは人のこころを理解しようとし人にとっての意味を理解しようとする心理学である。こころの世界の開拓者フロイトは大人の患者との精神分析治療の中で、人のこころの発達における幼児期の重要性を発見した。この授業の中で「こころ」の研究の歴史を辿り人と人との関わることで育まれる「関係性」について知り、自分自身と他者のこころを理解できるよう学んでほしい。

《授業の到達目標》

- ・人の不安の源泉はどこにあるのかを知る
- ・対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親との関係性と関連させて、より適切な関わりが実践できるよう学ぶ。

《成績評価の方法》

受講態度30%
レポート20%
筆記テスト50%
提出物には、コメントを付して返却する。

《テキスト》

こころの処方箋 （新潮文庫）河合隼雄

《参考図書》

授業内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

テキストを読んで、最終授業日までにレポートを提出する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学の基本的な考え方を知る
2	フロイトの発見	無意識をめぐって、フロイトの発見から考える
3	フロイトの精神分析①	自由連想法について知る
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いて学ぶ
5	ユングの分析心理学①	ユング自身の人生と分析心理学について知る
6	ユングの分析心理学①	ユングのタイプ論を知る
7	乳幼児期のこころの発達①	赤ちゃんの不安の源泉 メラニー・クラインの精神分析理論を知る
8	乳幼児期のこころの発達②	マーガレット・マラーの分離・個体化過程とウィニコットのホールディングについて学ぶ
9	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法を知る
10	箱庭療法①	ユング心理学と箱庭療法の関連について知る
11	箱庭療法②	箱庭療法の実際を学ぶ
12	行動療法	行動療法の理論を学ぶ
13	認知行動療法	考え方や思考のくせに気づき改善していくための認知行動療法を知る
14	フォーカシング	セルフ・カウンセリングとしてのフォーカシングを知る
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認を行う

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	加齢及び障害に関する理解		科目ナンバリング	STTC23015
担当者氏名	奥 典之			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

高齢者・障がい者の心理についての基本書を用いて、基本的・理論的な枠組みを事例等も活用し、理論と実践の両面からの学習を行っていく。本講は免許・資格取得科目のため、それらのエッセンスを適宜加えていくことにより、それらの専攻者としてのアイデンティティをもてるような内容とする。

《テキスト》

中野善達・守屋國光 編著「老人・障害者の心理」（改訂版）
福村出版

《参考図書》

特になし

《授業の到達目標》

社会福祉の専門職をめざす学生に対して、高齢者や障がい者に適切に接し、あるいは支援したり介護し、地域社会で共に生活していく基盤づくりができるようになるために、高齢者や障がい者をよりよく理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

自分自身の生活から切り離れた特別な事柄として捉えるのではなく、普段の身近な生活の中からきめ細かく見つめる訓練を続けて欲しい。

《成績評価の方法》

平常点と筆記試験、及び課題レポートによる。
全評価に対する割合（%）については、最初の授業で説明する。
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老人の心理	老年期と老化について
2	老人の心理	老人意識の問題について
3	障害とその心理的影響	障害と障害者について
4	障害とその心理的影響	障害の受容について
5	老人の心理的特性	老年期の精神機能について
6	老人の心理的特性	老年期の知能、記憶機能について
7	老人の心理的特性	老年期の人格と適応について
8	障害の原因・程度・種類別心理的特性	先天性・中途、中・軽度障害、視覚障害について
9	障害の原因・程度・種類別心理的特性	聴覚、言語、内部障害、肢体不自由について
10	障害の原因・程度・種類別心理的特性	知的、精神障害、軽度発達障害について
11	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の精神障害とその心理について
12	老年期の精神障害・機能障害とその心理	老年期の機能障害とその心理について
13	高齢者・障害者への対応	高齢者事例研究について
14	高齢者・障害者への対応	障害者事例研究について
15	老人・障害者の心理	総括として

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	人体の構造及び日常生活行動に関する理解		科目ナンバリング	STTC23016
担当者氏名	長尾 光城			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） 			

《授業の概要》

日本の社会保障制度には保健・医療・福祉のセーフティネットがあり、各分野が単独で対象者を支えることはできない。この社会保障が円滑に機能するには、社会福祉士が各関係機関との連携及び調整を図る必要がある。そこで、普段行っている生活行動を理論的に学び、かつ人体の構造と機能に対する理解及び疾病に対する対処方法等の基礎を理解し、連携に必要な基礎知識を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 心身機能と身体構造及び様々な疾病や人の成長・発達や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活行動との関係を踏まえて理解する。
- (2) 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。
- (3) リハビリテーションの概要について理解する。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）
提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

新・社会福祉士養成講座〈1〉人体の構造と機能及び疾病—医学一般 社会福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版

《参考図書》

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版 障害者福祉研究会編 中央法規出版 2002年

《授業時間外学習》

授業のなかで、3回レポート課題を出します。しっかり取り組んでください。

《備考》

医学一般の項目に興味を持てるように勉学に励んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人の成長と発達	身体の成長と発達について理解する。
2	人の成長と発達	身体及び精神の加齢と老化について理解する。
3	人体の構造と機能の概要	人体の運動神経器官の構造と機能について理解する
4	人体の構造と機能の概要	人体の内臓器官等の構造と機能について理解する
5	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要①	国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷を学ぶ。
6	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要②	心身機能と身体構造、活動、参加の概念を理解する。
7	国際生活機能分類の基本的な考え方と概要③	環境因子と個人因子の概念、健康状態と生活機能低下の概念を理解する。
8	健康の捉え方	健康と概念と公衆衛生、保健の概要について理解する。
9	疾病の概要①	悪性腫瘍、生活習慣病、感染症について理解する。
10	疾病の概要②	神経・精神疾患、精神疾患、難病について理解する。
11	障害の概要①	視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害について理解する。
12	障害の概要②	知的障害、精神障害、発達障害、認知症、高次機能障害について理解する。
13	リハビリテーションの概要①	リハビリテーションの定義、目的、対象方法について学ぶ。
14	日常生活上の工夫について①	日常生活様式と生活行動について短文事例を用いて理解する。
15	日常生活上の工夫について②	日常生活様式と生活上の工夫や生活リハビリについて短文事例を用いて理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神障害者の生活支援システム		科目ナンバリング	SPSC23017	
担当者氏名	中村 友昭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） 			

《授業の概要》

精神障害者の生活支援について考えるにあたっては、まずは障害の構造的理解が必要である。本講義ではICFによる障害の構造的理解を通じて、障害者の概念を学習し、地域生活での支援について具体的に考察する。また、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、エンパワメントなどの概念を精神障害者の生活支援との関連において考察する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 第7巻
「精神障害者の生活支援システム」第2版
中央法規出版、2014

《参考図書》

精神保健医療福祉白書 2017 ～地域での共生に向けて～
精神保健医療福祉白書編委員会=編集 中央法規出版

《授業の到達目標》

ICFについて理解し、その理念にもとづいて、「生活機能と障害」「活動と参加」などの概念を説明できる。また精神障害者にとって「人として当たり前の暮らし」とは何か、様々な場面で生活支援との関連において説明できる。

《授業時間外学習》

事前にテキストに目を通しておくこと。まぎわらしい専門用語が多いので、ノートにまとめたり、索引を使って、こまめにチェックし意味を確かめるなどしてほしい。

《成績評価の方法》

授業に対する態度（20%）、レポート（30%）、定期試験（50%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神障害者の概念と特性	ICFの概要を学習し、障害の構造的理解を深める。
2	精神障害者の定義と精神保健福祉法	法律で定義されている精神保健福祉法と他の法律で定義されている概念の比較を通じてその特性を確認し、「精神障害者」のとらえ方について考察する。
3	精神障害者の生活の実際	様々な調査結果を参照しながら、精神障害者、その家族そして地域社会の実際について学習する。
4	精神障害者の生活と人権	生活支援の理念と概念について考察し、近年の地域生活支援論の動向に関して学習する。また、精神障害者の人権について精神保健福祉士の役割と機能の観点から考察する。
5	精神障害者の地域生活支援システム①	相談援助・雇用・余暇活動等における地域生活支援について学習する。
6	精神障害者の地域生活支援システム②	ソーシャルサポートネットワーク、クライシスケアについて学習する。また、地域生活支援システムの実際について実例を通して学ぶ。
7	精神障害者の居宅支援①	居宅支援制度の歴史的展開について学習する。
8	精神障害者の居宅支援②	居宅支援と精神保健福祉士の役割について学習する。
9	精神障害者の居宅支援③	居宅支援に関わるその他の専門職と役割について学習する。
10	精神障害者の雇用・就業支援①	雇用・就業支援制度の概要と歴史的発展について学習する。
11	精神障害者の雇用・就業支援②	雇用・就業にかかわる専門職とその支援の実際について学習する。
12	精神障害者の雇用・就業支援③	福祉的就労における支援の実際について学習する。また、雇用・就労支援における近年の動向について学習する。
13	行政における相談援助	市町村及び都道府県における相談援助システムについて学習する。
14	行政における精神保健福祉士の役割と機能	行政機関における精神保健福祉士の業務について学習し、事例を通してその特徴と課題について考察する。
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援 I		科目ナンバリング	SPSC23018	
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

私たちにとって非常に身近であり、かつ、とても重要な課題である「こころの健康（メンタルヘルス）」についての理解を深めていくことを目標とし、こころの健康を保持・増進させるために必要な基礎知識を学ぶ。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神の健康についての基本的な考え方と、精神保健学が関係する科目・学問との間で果たす役割について理解する。
- ②精神保健を維持、増進するための機能の理解と、精神の健康に関わる専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。

《授業時間外学習》

日ごろから、新聞、テレビ、書物などによりこころの問題・精神保健福祉分野の最近の動向を把握しておくこと。
講義後、学習をした内容について、理解を深める意識を持つこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度 50%

レポート課題 50%

提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業内容に関することについて、積極的に質問をし、議論しながら学んでもらうことを望む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	こころの問題（メンタルヘルス）について理解を深める。
2	精神保健についての基礎知識	精神保健についての基本的な考え方を学ぶ。
3	精神保健の概要	精神保健の重要性と精神保健の・定義についての基本的な考え方を学ぶ。日本・アメリカ等の精神保健の歴史を学習する。
4	精神の健康に関連する要因（1）	精神保健にとって重要な概念 健康についての現在の考え方を学ぶ。
5	精神の健康に関連する要因（2）	精神保健にとって重要な概念 疾患の定義、障害についての考え方を学ぶ。
6	ライフサイクルと精神の健康（1）	胎児期・妊産婦の精神保健：生命の誕生から出産まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。夫婦・出産
7	ライフサイクルと精神の健康（2）	乳幼児期の精神保健：乳児～幼児まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。発達障害・養育
8	ライフサイクルと精神の健康（3）	学童期における精神保健：7歳から12歳まで ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。いじめ・不登校
9	ライフサイクルと精神の健康（4）	思春期・青年期における精神保健：12歳頃から25歳頃まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。ひきこもり・非行
10	ライフサイクルと精神の健康（5）	成人期における精神保健：25歳頃から60歳頃まで 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。家族・うつ病・勤労
11	ライフサイクルと精神の健康（6）	初老期・老年期における精神保健 各ライフサイクルごとの発達課題や特徴を理解する。認知高齢者・超高齢化社会
12	精神の健康とその要因	ストレス・生活習慣・身体、精神疾患に由来する障害を学習する。
13	精神の健康への関与と支援（1）	精神の健康に関する心的態度について理解する。
14	精神の健康への関与と支援（2）	精神保健に関する予防の概念を理解する。
15	精神の健康への関与と支援（3）	精神保健福祉制度、地域保健制度 精神保健に関する国、都道府県、市町村、団体等の役割、および専門職種を理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健の課題と支援Ⅱ		科目ナンバリング	SPSC23019	
担当者氏名	瀬尾 学				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） 			

《授業の概要》

現代社会における、家庭、学校、職場、地域等のそれぞれにおいて、精神の健康に関わる課題と、その解決のためのアプローチを学習し、精神保健福祉士の役割について理解する。

《テキスト》

中央法規出版 新・精神保健福祉士養成講座2 精神保健の課題と支援 第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 編集

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①現代社会における精神保健の諸課題と精神保健の実際及び精神保健福祉士の役割について理解する。
- ②日本をはじめとして、世界における精神保健福祉活動の現状と課題について理解を深める。

《授業時間外学習》

テキストを読んで授業にのぞむこと。
こころの問題に関する課題について意識し、気が付くことができるように、新聞、雑誌、報道等に注意しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・授業態度50% レポート課題・試験50%
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

授業内容等に関する疑問や意見は積極的に述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	精神保健の視点からみた家族の課題1	現代日本の家族の特徴 現代日本の家族の形態と機能を理解する。 【家族】
2	精神保健の視点からみた家族の課題2	結婚生活・育児をめぐる家族に関する精神保健を理解する。 【夫婦・育児・発達障害・虐待】
3	精神保健の視点からみた家族の課題3	病気療養や介護をめぐる精神保健を理解する。 【病気療養・介護、認知高齢者、ターミナル】
4	精神保健の視点から見た学校教育の課題1	現代日本の学校教育と生徒児童の特徴について理解する。 【不登校・いじめ・自殺・非行暴力】
5	精神保健の視点から見た学校教育の課題2	教員の精神保健、関与する専門職と関係法規・学校保健法について理解する。 【教員のメンタルヘルス・スクールソーシャルワーカー】
6	精神保健の視点からみた勤労者の課題1	現代日本の労働環境について理解する。 【職場内でのメンタルヘルス・関連法規】
7	精神保健に関する対策 うつ病・自殺対策	うつ病と自殺防止対策について理解する。
8	精神保健の視点からみた勤労者の課題2	飲酒問題、薬物依存、ギャンブル依存に関する問題・対策について理解する。 【アルコール依存症・薬物依存等 アディクション（嗜癖）】
9	精神保健に関する対策 アディクション対策	アルコール飲酒に対する対策、薬物依存対策等について理解する。
10	精神保健に関する対策と課題	性同一性障害・多文化と精神保健について学習する。
11	精神保健に関する対策と課題 災害	災害、災害被災者の精神保健 犯罪被害者の精神保健について理解する。
12	精神保健に関する対策と課題 現代社会	ニート・若年無業者と精神保健 ホームレス・貧困問題 ほかに現代社会の課題等について理解する。
13	地域精神保健に関する諸活動1	精神保健に関係する法規などについて理解する。
14	地域精神保健に関する諸活動2	精神保健に関する調査、資源開発、ネットワークづくりなどについて理解する。
15	諸外国の精神保健活動の現状及び対策	世界の精神保健の実情について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I A		科目ナンバリング	SPSC23020	
担当者氏名	光田 豊茂				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーションは精神疾患を抱えた人達に対して、その人達が生きて行く上での生活の質（QOL）を少しでも良くするための援助の方法です。この援助の基本的知識として、精神科リハビリテーションの概念や歴史、その構成、及びプロセスについて講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座4『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【図説リカバリー】野中猛、中央法規出版、2011

《授業の到達目標》

精神科リハビリテーションの目的、意義を理解し、精神科病院や社会復帰施設、地域の様々な施設、機関での精神科リハビリテーションの取り組みについて説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
 レポート課題に対する取り組み（50%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向を概観し、その制度の背景についても理解する。
2	諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	諸外国（アメリカ、カナダイギリス、イタリア等）の精神保健医療福祉制度の変遷について理解する。
3	精神保健福祉士における活動の歴史	精神保健福祉士のこれまでの活動の歴史を振り返り、精神障害者に対する支援の基本的な考え方を理解する。
4	精神障害者支援の理念	精神障害者支援の基盤となる考え方とその原理について理解する。
5	精神保健医療福祉領域における支援対象	精神障害者の定義とその特性について理解する。
6	精神障害者の人権	精神障害者の権利擁護システムについて理解する。
7	精神科リハビリテーションの概念	精神科リハビリテーションの定義や精神科リハビリテーションの起源やその歴史について理解する。
8	精神科リハビリテーションの理念と意義	WHOのリハビリテーションの理念や精神科リハビリテーションの特徴や意義、基本原則について理解する。
9	精神科リハビリテーションの構成と展開	精神科リハビリテーションの対象と、精神科リハビリテーションにかかわる専門職等との連携について理解する。
10	リハビリテーションのプロセス	リハビリテーションの計画とその評価について理解する。
11	アプローチの方法	病院や地域におけるリハビリテーションの方法について理解する。
12	作業療法	精神科作業療法の今日までの歴史を知り、どのような作業療法の活動があるのか、また回復状態に応じて作業療法の目的や役割が違うということを理解する。
13	精神科作業療法の実際	実際に医療現場で行われている精神科作業療法のプログラムや活動内容について理解する。（ゲスト講師予定：作業療法士）
14	レクリエーション療法	レクリエーション療法の活動内容やその目的、そして、レクリエーション療法を行う時の原則について理解する。
15	集団精神療法	集団精神療法とはどのようなものか、グループワークとどう違うのかを知り、集団精神療法の効果や構造について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I B		科目ナンバリング	SPSC23021
担当者氏名	光田 豊茂			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー）			

《授業の概要》

精神科リハビリテーション I を踏まえ、医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を提示し、それに携わる精神保健福祉士の役割について講義する。

《テキスト》

新・精神保健福祉士養成講座 4 『精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会編集、中央法規出版、2014

《参考図書》

【図説リカバリー】野中猛、中央法規出版、2011

《授業の到達目標》

医療機関における様々な精神科リハビリテーションの実際を知り、そこにおける精神保健福祉士の果たす役割を説明できる。

《授業時間外学習》

毎回授業が終わった後に、その授業内容について復習をしておくこと。

《成績評価の方法》

授業への取り組み（50%）
 レポート課題に対する取り組み（50%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

授業中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	行動療法	学習理論を基に不適応行動の変容に応用した治療技法である行動療法について理解する。（主に、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論の技法）
2	認知行動療法の概要	認知行動療法の基本的な考え方について理解する。（認知・感情・行動の三要素、自動思考やスキーマについて理解する。）
3	認知行動療法の実際	自動思考記録表（7つのコラム表）を用いて、実際の状況について認知再構成を試してみる。
4	社会生活技能訓練の理論	社会生活技能訓練の基本的考え方やその特色について理解する。
5	社会生活技能訓練の実際	具体的な例を用いて、実際にロールプレイを行いながら社会生活技能訓練の技法を体験してみる。（ゲスト講師予定：精神保健福祉士）
6	家族教育プログラム	精神障害者を抱える家族に対して、家族教育プログラムがどうして必要であるのか、また求められる家族教育プログラムの方法や進め方について理解する。
7	デイケア、ナイトケア	地域精神保健福祉活動のひとつとして、デイケアやナイトケアがどのように行われているかを理解する。
8	精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護指導	なぜ精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導が必要であるかを理解し、実際の訪問看護・指導がどのように行われているかを知る。
9	チーム医療の概要	精神科医療機関におけるチーム医療の必要性について理解する。
10	医療機関における多職種との協働・連携	医療機関における多職種による協働・連携を通じてチームアプローチの必要性を理解する。
11	精神障害者支援の実践モデル	精神障害者支援の実践モデルの意味とその内容について理解する。
12	相談援助の過程および対象との援助関係	地域における相談援助の展開を念頭に、「ケースの発見」「面接・契約」から「支援・計画」「支援と評価」そして「終結・アフターケア」に至る一連の過程を理解する。
13	相談援助活動のための面接技術	面接を効果的に行う方法や面接技法について理解する。
14	スーパービジョンとコンサルテーション	スーパービジョンの意義や機能・形態およびコンサルテーションの意義や方法について理解する。
15	まとめ	これまで講義してきた精神科リハビリテーションの実際について総括し、医療機関における精神保健福祉士の果たす役割の重要性について理解する。

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ A		科目ナンバリング	SPSC23022
担当者氏名	正井 佳純			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input checked="" type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力）			

《授業の概要》

- ①精神障害者を対象とした相談援助活動の展開
 - ②家族調整・支援
 - ③地域以降
 - ④地域を基盤にした相談援助
- 上記4点について、講義と事例検討を通して学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした支援の基本的考え方と相談援助技術の展開について理解する。
- ②精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- ③精神障害者の地域生活の実態と社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。
- ④上記①②③について説明し自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所に目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
 レポート等の提出 20%
 定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	相談援助の展開①	個別支援の実際と事例分析
2	相談援助の展開②	集団を活用した支援の実際と事例分析
3	相談援助の展開③	事例による相談援助活動の検討
4	相談援助の展開④	事例による相談援助活動の検討
5	相談援助の展開⑤	事例による相談援助活動の検討
6	家族調整・支援の実際①	精神保健福祉における精神障害者と家族の関係、家族支援の方法
7	家族調整・支援の実際②	事例による家族調整・支援の検討
8	地域移行の対象および支援体制①	地域移行支援の対象と地域移行の体制
9	地域移行の対象および支援体制②	精神保健福祉士の役割と他職種との連携
10	地域移行の対象および支援体制③	地域移行支援・地域定着支援の取組
11	地域移行の対象および支援体制④	地域移行にかかわる組織や機関
12	地域移行の対象および支援体制⑤	事例による地域移行支援の検討
13	地域を基盤にした相談援助の主体と対象①	精神障害者をとりまく社会的状況、地域相談援助の主体・対象・体制
14	地域を基盤にした相談援助の主体と対象②	事例による地域を基盤にした相談援助活動の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉の理論と相談援助の展開ⅡB		科目ナンバリング	SPSC23023
担当者氏名	正井 佳純			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心を持ち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） 			

《授業の概要》

- ①地域を基盤にした精神科リハビリテーションの基本的考え方
 - ②精神障害者のケアマネジメント
 - ③地域を基盤にした支援とネットワーク
 - ④地域生活を支援する包括的な支援
- 上記4点について講義と事例検討を通じて学ぶ。

《テキスト》

『新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第2版』日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2014年

《参考図書》

《授業の到達目標》

- ①精神障害者を対象とした地域リハビリテーション、ケアマネジメント、コミュニティワークについて理解する。
- ②地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援の意義と展開について理解する。
- ③上記①②について説明し、自分の意見が言えるようになる。

《授業時間外学習》

各回の講義の前にテキストの該当箇所を目を通し、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

授業への参加意欲、態度 20%
レポート等の提出 20%
定期試験 60%

《備考》

- ①ソーシャルワーカーの卵としての自覚を持った上で授業に臨むこと。
- ②講義中、積極的に質問や意見を述べること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方①	地域ネットワーク、アウトリーチ
2	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方②	地域生活支援事業と訪問援助、家族会およびセルフヘルプグループ
3	地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的考え方③	精神保健福祉ボランティアの育成と活用
4	精神障害者のケアマネジメント①	ケアマネジメントの原則
5	精神障害者のケアマネジメント②	ケアマネジメントの意義と方法
6	精神障害者のケアマネジメント③	ケアマネジメントの展開過程、チームケアとチームワーク
7	精神障害者のケアマネジメント④	事例による精神障害者ケアマネジメントの検討
8	地域を基盤にした支援とネットワーク①	地域を基盤にした支援の概念と基本的性格
9	地域を基盤にした支援とネットワーク②	地域アセスメントとBSCおよびSWOT分析
10	地域を基盤にした支援とネットワーク③	地域を基盤にした支援の具体的展開
11	地域を基盤にした支援とネットワーク④	事例による地域を基盤にした支援の検討①
12	地域を基盤にした支援とネットワーク⑤	事例による地域を基盤にした支援の検討②
13	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開①	包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開
14	地域生活を支援する包括的支援の意義と展開②	事例による地域生活を支援する包括的な取組の検討
15	まとめ	本講義で学んだことに関するふりかえり

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

科目名	精神保健福祉援助実習指導		科目ナンバリング	SPSC23026	
担当者氏名	光田 豊茂、和田 光徳				
授業方法	実習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input type="radio"/> 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力）				

《授業の概要》

- 1、必要な知識及び援助並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。
- 2、職業倫理を身につける。
- 3、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
- 4、専門職種との連携のあり方を理解する。

《テキスト》

『精神保健福祉援助実習指導・実習』第2版 日本精神保健福祉士養成校協会 中央法規出版社 2015年

《参考図書》

《授業の到達目標》

精神障害者の特性や、置かれている状況や生活課題を理解し、精神保健福祉士がどのような制度、サービスを用いてその支援を行っているかを理解する。そして、次年度の実習に備えるようにする。

《授業時間外学習》

機会があれば精神保健福祉現場の見学研修も実施する。

《成績評価の方法》

授業態度及び事前学習の発表内容（60%）
 レポート課題に対する取り組み（40%）
 ※レポートにはコメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	精神保健福祉援助実習の意味および組み立てについて
2	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（統合失調症）
3	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（気分障害）
4	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（依存症）
5	実習に向けての事前学習	代表的な精神疾患について調べ発表する（不安障害、認知症）
6	当事者理解	精神障害者の抱えている生活課題や困難について理解する（ゲスト講師予定：精神障害者当事者）
7	面接技法	実際に面接をロールプレイで行い、面接技法について深めて行く
8	精神保健福祉士業務の実際を知る	精神科医療機関における精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：医療機関で働く精神保健福祉士）
9	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
10	障がい者支援施設の見学	障がい者支援施設を見学して、利用者の状況や精神保健福祉士の役割について理解する
11	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
12	精神保健福祉士業務の実際を知る	地域で働く精神保健福祉士の実際業務について理解する（ゲスト講師予定：地域で働く精神保健福祉士）
13	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
14	実習に向けての事前学習	実習先でよく利用する社会制度・社会資源について調べ発表を行う
15	実習先の検討および調整	実習生の住所地、興味、進路に応じ実習先の検討を行う

《専門教育科目 専門発展科目》

科目名	福祉レクリエーションⅡ	科目ナンバリング	SFFD23027
担当者氏名	マーレー 寛子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

福祉レクリエーション論Ⅰを土台に、「楽しむことができるようになる」ための援助に関するシステムの理論的背景を理解する。一人一人のクライアントのニーズを理解し、そのニーズに沿ったレクリエーションの計画を立てるための方法論を学ぶ。

《テキスト》

よくわかる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル2
日本レクリエーション協会編 2013

《参考図書》

《授業の到達目標》

福祉レクリエーション総合計画について理解する。APIEプロセスについて理解する

《授業時間外学習》

課題レポート 授業内でしめされる課題についてリサーチし、レポートをまとめる

《成績評価の方法》

課題レポート（期日厳守）50% 振り返りテスト（コースの最終日に行う。持ち込み不可）50%
提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	福祉レクリエーション総合計画	個人のニーズと共通のニーズの理解を深める
2	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析1）組織の分析
3	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：分析2）資源の分析 3）地域の分析
4	福祉レクリエーション総合計画	福祉レクリエーション総合計画：概念化・検討・決定
5	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：アセスメント、ICFを活用したアセスメント
6	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング（福祉レクリエーション活用計画）
7	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：プランニング（福祉レクリエーション活用支援プラン）
8	福祉レクリエーションサービス活用支援プラン	APIEプロセス：評価（評価の始点）
9	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案
10	グループレクリエーション	グループを介したレクリエーションの計画立案：グループダイナミックス
11	一人一人を支える行事・イベントの計画	福祉レクリエーション総合計画の中での位置づけ・目標設定
12	一人一人を支える行事・イベントの計画	イベント企画：準備・実施のポイント
13	福祉レクリエーション支援の評価	記録と評価の方法
14	レジャー教育	レジャー教育の概要
15	コースのまとめ	学期の振り返り・筆記テスト

科目名	福祉レクリエーション演習Ⅱ		科目ナンバリング	SFFD23028	
担当者氏名	原 志津				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）			

《授業の概要》

福祉レクリエーション支援は、①支援者と対象者が1対1で関わる個人への介入 ②小集団のグループダイナミクスを活かした介入 ③レクリエーション活動への参加を促す環境づくりの方法がある。3冊目のテキストを使いながら、これまでの学習の総まとめをし、3年夏のソーシャルワーク実習の現場や将来の仕事先で大いに役立ててほしい。

《授業の到達目標》

- ①福祉レクリエーション支援の3つの方法について理解する。
- ②対象者と現場のニーズにあわせた福祉レクリエーション活動を考え実践できる。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度30）＋振り返り提出点20＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30
 提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

必要な資料は適宜配布する。

《参考図書》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術3」見通しと根拠をもって個人やグループを支える方法（日本レクリエーション協会・2007）「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業時間外学習》

図書館にあるレクリエーション関連の本にあたってみたり、自分の興味のあるレクリエーションの分野は何か、常に関心のアンテナをはって、実技できる領域を増やしていけるよう行動して欲しい。Ⅱ期の終わりには、筆記試験・実技試験が学内で開催されるので、Ⅱ期には「試験対策講座」実施の予定です。

《備考》

授業には実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	福祉レクリエーションの介入技術とは
2	1. 個人への福祉レクリエーション支援①	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開①個人への介入の構造
3	1. 個人への福祉レクリエーション支援②	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開②個人への介入方法を活かしたレクリエーション活動の展開
4	個人で楽しむ福祉レクリエーション	施設の種類の展開事例について
5	個人のモチベーションを高めるには	動機付けに用いやすい1対1の福祉レクリエーション活動例
6	2. 小集団の交流を活かした介入技術①	①対象者同士の相互作用を引き出す介入技術
7	2. 小集団の交流を活かした介入技術②	②みんなの楽しさがひとりの楽しさへ
8	2. 小集団の交流を活かした介入技術③	③小集団の長所を生かす支援者のかかわり方
9	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開①②	小集団を生かしたプログラム作りの方法
10	2. 小集団を活かした福祉レク活動の展開②	小集団の力を引き出し、活かしやすい活動について
11	3. 環境づくり	没頭できる趣味活動の発見と継続を支える環境づくり①自立的な生きがい活動の追及や余暇活動の意義②支援の基本的な考え方と方法③社会資源の実際とつなげ方
12	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ①	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ①
13	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ②	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ②
14	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ③	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ③
15	対象者と現場にあわせたレク活動のアレンジ④	対象者と現場にあわせた福祉レクリエーション活動のアレンジ④

科目名	在宅ケア論	科目ナンバリング	SFFD23032
担当者氏名	小林 茂		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合）		

《授業の概要》

地域での自立生活を支援するうえで重要な「生活の場におけるケア：在宅ケア」を考察するため、在宅ケアの特徴を知り、在宅ケアに必要な基礎的知識を学ぶ。また、在宅ケアにかかわる社会資源の活用、地域社会との連携、多職種連携におけるソーシャルワーカーの役割と機能を理解し、説明できるようになる。

《授業の到達目標》

1. 在宅ケアに関する動向、社会的ニーズを知り、在宅ケアの目的・理念と特徴について理解する。
2. 在宅ケアの対象者の特徴を知り、要支援者の自立生活を支援するためのソーシャルワーカーの役割と機能を理解する。
3. 在宅ケアに関わる社会資源の活用、地域社会との連携、多職種連携におけるソーシャルワーカーの役割と機能を理解する。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内藤討論等への参加とその成果 20%
- (2) 課題レポート 20% (提出遅れは減点)
- (3) 定期試験 60%
※レポートにはコメントを付し採点后返却する

《テキスト》

授業内容に即したプリントを配布

《参考図書》

- 「地域福祉援助をつかむ」 岩間伸之・原田正樹著 有斐閣 (2012)
 「障害を持つ人たちの自立生活とケアマネジメント」 谷口 明広 著 ミネルヴァ書房 (2005)

《授業時間外学習》

改めて自己の日常生活をふりかえり、自分らしく生活するとは何か、そのための条件は何かを考えてみましょう。
 また、これまで学んできた社会福祉の諸制度などを整理しておきましょう。

《備考》

1. 授業の進行の妨げになる携帯電話の使用、私語は厳禁。
2. アクティブラーニングゾーンにて授業を実施する場合もある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅ケアの目的と理念	我が国の在宅ケア、コミュニティケアの変遷を踏まえ、在宅ケアの目的と理念をについて理解する
2	在宅ケアの特徴と機能	「自立」の概念整理をするとともに、地域での自立生活と何か、在宅ケアの特徴は何かを入所施設でのケアと比較しながら考察できる
3	生活支援／自己決定を支える援助	当事者が地域で主体的に生活していくための支援のあり方、とりわけ自己決定を支える援助について考察できる
4	在宅ケアと家族支援	在宅ケアにおいて、家族も含めて支援することの重要性を理解し、家族の特性とともに家族へのアセスメント方法について理解する
5	在宅生活を支える”住まい”	生活の場である住まいは当事者の数だけ違いがある。生活の場である家屋、生活資源を調達する地域を含めた”住まい”について理解する
6	社会参加と地域社会	ケアを受ける当事者が多様な分野の社会参加ができるようにするための条件および地域社会の課題について理解する
7	在宅ケアと権利擁護	地域での自立生活を支える権利擁護の概念整理と実践現場での課題について考察できる
8	在宅ケアに関わる社会資源①	在宅ケアめぐる諸制度(介護保険制度、障害者総合支援法等) およびフォーマル、インフォーマルの社会資源の内容と特性を理解する
9	在宅ケアに関わる社会資源②	在宅ケアめぐる諸制度(介護保険制度、障害者総合支援法等) およびフォーマル、インフォーマルの社会資源のコーディネートの方法について理解する
10	多職種連携とソーシャルワーカーの役割	当事者の地域での自立生活に向け、多様な専門職及びインフォーマルなサポートと連携していくための方法の理解とソーシャルワーカーの役割について考察できる
11	在宅での自立生活支援の展開方法①	多問題家族の事例をとおして、在宅ケアの展開方法について考察できる
12	在宅での自立生活支援の展開方法②	多問題家族の事例をとおして、在宅ケアの展開方法について考察できる
13	在宅での自立生活支援の展開方法③	障害者の事例をとおして、地域移行に向けての支援の展開方法について考察できる
14	当事者の地域生活に即したサービス開発	地域での当事者の暮らしを支えるコミュニティケアの開発、改良を行うための視点と展開方法について理解する
15	コミュニティケアと地域福祉	在宅ケア、コミュニティケアを支える地域社会づくりを住民主体で取り組めるよう支援していく方法及び専門職の役割について考察できる

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	竹内 一夫、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年（I期）
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書（9科目）

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果（20%）
 2. レポートおよび授業案等の提出物（40%）
 3. 模擬授業の実施とその成果（40%）
- 提出物についてはコメントを付し、返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講義の講義内容、講義形態、受講のこころ構え等について理解し、年間の学習の見通しを立て、学習計画を立てることができる。
2	教科「福祉」の意義と目的	(1)福祉教育の変遷過程と現代社会における意義、(2)教科「福祉」創設の背景、(3)教科「福祉」の概要等について理解する。
3	高等学校学習指導要領（福祉編）（1）	(1)学習指導要領の性格及び内容、(2)高等学校の教育課程、(3)高等学校の教育課程の編成等について理解する。
4	高等学校学習指導要領（福祉編）（2）	(1)高校福祉科の目的と役割、(2)教科「福祉」の科目構成及び教育課程の編成等について理解する。
5	学習指導計画と学習指導案	(1)学習指導計画の意義、(2)学習指導計画の作成方法、(3)学習指導案の意義、(4)学習指導案の作成方法等について理解する。
6	教材研究	(1)重点指導項目の理解、(2)素材の教材化、(3)他の学習内容との関連性等について理解する。
7	各科目の内容理解「社会福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解「社会福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
9	指導案の作成「社会福祉基礎」III	実際に授業案を作成できる。
10	模擬授業「社会福祉基礎」IV	指導案に沿って授業を実施できる。
11	各科目の内容理解「介護福祉基礎」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解「介護福祉基礎」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	指導案の作成と模擬授業「介護福祉基礎」III	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
14	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」I	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
15	各科目の内容理解「コミュニケーション技術」II	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	福祉科教育法	科目ナンバリング	STSW43001
担当者氏名	竹内 一夫、吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	4・選択
		開講年次・開講期	3年・通年(Ⅱ期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本科目では、高等学校の教科「福祉」を教える教員に必要な「福祉科教育法」の習得をめざす。高校「福祉」を教えるためには、指定9科目の学習内容を理解するとともに、適切な指導方法を習得し、学習が円滑にできるよう、実践力を身につけることを目標とする。I期では、「福祉」の位置づけ・科目構成等、各科目の内容・指導法について学ぶ。また、授業展開の基本的理解に基づいた学習指導案が作成できるようにする。

《テキスト》

『高等学校学習指導要領 福祉編』文部科学省、海文堂
『新学習指導要領の展開 福祉科編』保住芳美編、明治図書出版

《参考図書》

高校「福祉」教科書(9科目)

《授業の到達目標》

1. 福祉教育の理念と教科「福祉」創設について説明できる。
2. 「福祉」に携わる教員に求められる知識と技術、倫理観や責任感を身につける。
3. 「福祉」の教育内容・指導法について理解し実践できる。
4. 「福祉」の介護関連の知識を統合し実習指導ができる。
5. 年間指導計画および学習指導案を作成し授業を実施できる。

《授業時間外学習》

毎日、新聞を読み、授業時に適宜、高校教育や福祉教育に関係する記事について、3分程度で解説できること。

《成績評価の方法》

1. 授業内討論等への参加および発表とその成果(20%)
 2. レポートおよび授業案等の提出物(40%)
 3. 模擬授業の実施とその成果(40%)
- 提出物にはコメントを付し返却する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
2	各科目の内容理解 「生活支援技術」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
3	指導案作成と模擬授業 「生活支援技術」Ⅲ	実際に授業案を作成して、授業を実施できる
4	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
5	各科目の内容理解 「介護過程」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
6	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
7	各科目の内容理解 「介護総合演習」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
8	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画、(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法等について理解できる。(DVD視聴、ゲストスピーカー)
9	各科目の内容理解 「介護実習」Ⅱ	(6)実習の運営計画、(7)実習実施の留意点等について理解できる。 (学校現場見学と授業参観等)
10	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
11	各科目の内容理解「こころとからだの理解」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
12	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅰ	(1)科目の目標及び内容、(2)学習指導計画 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
13	各科目の内容理解 「福祉情報活用」Ⅱ	(3)教材研究、(4)指導案作成、(5)評価法 ○教材研究・学習指導案の作成・授業展開の一連の流れを説明できる。
14	学習のまとめ(1) 授業案作成	教科「福祉」の総合的理解を土台として、特定の単元を取り上げ、授業展開を組み立て、教材研究ができる。
15	学習のまとめ(2) 模擬授業実施と講評	教科「福祉」の総合的理解を土台として作成した授業案に基づき授業を実施できる。

《教職に関する科目》

科目名	進路指導論	科目ナンバリング	STAL43009
担当者氏名	古川 雅文		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

進路指導は、中学校および高等学校の教員が担任として必ず行わなければならないものである。最近ではキャリア教育として、より広く、系統的な展開が目指されている。

この授業では、進路指導とキャリア教育について、学校教員として備えておくべき基礎的な知識を学習する。また、背景になっている理論と実践例の両方を学ぶことで、進路指導とキャリア教育をより深く理解する。

《授業の到達目標》

- ・進路指導の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・キャリア教育の意義、目的、内容、方法について説明できる。
- ・進路指導とキャリア教育の関係を説明できる。
- ・学校において、教員としてどのように進路指導及びキャリア教育に取り組むかを構想できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験(60%)、(2)レポート(20%)、(3)その他(提出物、プレゼンなど)(20%)。100点満点で、60点以上を合格とする。
※レポート等にはコメントを付して返却する。

《テキスト》

『キーワード キャリア教育 一生涯にわたる生き方教育の理解と実践-』小泉令三・古川雅文・西山久子(編)、北大路書房、2016

《参考図書》

『中学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成23年

『高等学校 キャリア教育の手引き』文部科学省(編)、教育出版、平成24年

『その幸運は偶然ではないんです!』J.D. クランボルツ他(著)、花田光世他(訳)、ダイヤモンド社、2005年

《授業時間外学習》

1. 予習の方法:教科書の指定箇所、あらかじめ配布する資料などを読んでおくこと。
2. 復習の方法:授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べること。

《備考》

欠席や遅刻・早退が多い場合(5回以上)は不合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	進路指導の意義と内容	進路指導は何のために行うのか、そして、その内容にはどのような領域があるかについて理解する。
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	進路指導の歴史の変遷、キャリア教育の登場した社会的背景と考え方の変遷について理解する。また、現在の進路指導とキャリア教育の関係について理解する。
3	キャリア教育の意義と内容	キャリア教育の意義と内容について理解し、説明することができる。
4	進路指導・キャリア教育の理論1	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである特性因子論について理解する。
5	進路指導・キャリア教育の理論2	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つであるキャリア発達理論について理解する。
6	進路指導・キャリア教育の理論3	進路指導やキャリア教育の基礎理論の一つである学習理論等について理解する。
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	学校教育の中で、どのようにキャリア教育を行っていくか、教育課程との関係を理解する。
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	特にキャリア教育の方法的特色を理解し、具体的な教育方法について説明できる。
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
11	高等学校等におけるキャリア教育実践	高等学校および特別支援学校でのキャリア教育の実践例を参照し、その特色を理解する。
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	学校で行われる進路相談とキャリアカウンセリングについて、その基礎理論と方法的特色を理解する。
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導とキャリア教育を学校で推進していくための組織と、推進方法について理解する。
14	進路指導・キャリア教育の評価	主にキャリア教育における評価方法について理解する。
15	諸外国におけるキャリア教育	アメリカ、ドイツ、フランスなどのキャリア教育について理解し、わが国のキャリア教育との違いを説明できる。

《教職に関する科目》

科目名	事前・事後指導	科目ナンバリング	STSW43002
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育実習とは、高等学校の実際の教育現場において、観察、参加、実習（研究授業）等を行うことである。本科目は、(1) 自発的な創造性と旺盛な研究意欲をもって現場実習に臨むことができるよう十全な準備を行うことを目的とする事前指導、および(2)実習校での経験をふり返るとともに明確化し、意味づけるために行う事後指導により構成される。授業形態として、討議と発表、ロールプレイや模擬授業などを中心とする。

《授業の到達目標》

(1)教育実習で行うことからの体系についての情報と知識を理解し、説明できる。(2)教育実習を行う上で心がけなければならないマナーや心得等について説明できる。(3)教科指導について、模擬授業を実施し、自己評価できる。(4)実習の経験を踏まえて、研究授業を行い、自己評価できる。(5)実習の経験を踏まえて、学級経営について、問題点を発見し、解決できる。

《成績評価の方法》

事前指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)知識・技術の習得10%、(3)模擬授業30%の配点により評価する。事後指導においては、(1)演習への参加意欲10%、(2)研究授業20%、(3)問題解決力20%の配点により評価する。提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

使用しない。

《参考図書》

授業時に適宜紹介する。

《授業時間外学習》

本科目では、授業ごとの予習復習というよりは、日頃から教育問題に関心をもち、「教育とは何か」「子どもを導くとはどのようなことか」などについて自分なりの考えを述べられるようにまとめておくことが大切である。教授・指導上の観点だけでなく、教育法規的な側面、学校の社会的な役割など、多面的・複眼的に捉える力を養う努力が求められる。

《備考》

演習という授業形態のため、全回出席することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習の全体	(1)教師(教員)養成と教育実習 (2)教育実習の目標 (3)教育実習の展開 (4)教育実習の心得について理解する
2	教育実習の内容 (1)	(1)学校経営 (2)学校の組織 (3)生徒の理解事項 (4)教育課程 (5)学習指導について理解する
3	教育実習の内容 (2)	(1)道徳と特別活動 (2)生徒指導と学級経営 (3)学校の施設と環境 (4)教師としての勤務について理解する
4	教育実習の実際	(1)教材研究の実際 (2)学習指導の実際 (3)学習指導案の事例 (4)授業研究の実際 (5)道徳・特別活動・生活指導の実際 (6)教育実習の評価について理解する
5	教育の方法及び技術	(1)授業の仕組みとはたらき (2)授業を創る (3)その他について理解する
6	教材研究と指導案づくり	(1)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
7	教材研究と指導案づくり	(2)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
8	教材研究と指導案づくり	(3)授業準備としての教材研究と指導案作成の技術を習得する (講義および演習)
9	模擬授業 (および討議)	実際の授業を想定して、教室にて模擬授業を実施し、講評を行う
10	「教育実習」の諸注意と準備	教育実習のマナーと心得、授業記録の書き方、教育実習の評価について理解する
11	「教育実習」全体のふり 返り	実習内容の明確化・体系化を目的として、討議および発表 (実習内容の検証・共有化)を行う
12	事後の教材研究と事後の 授業研究	教育実習における授業実践上の経験や学習内容を振り返る
13	研究授業 (および討議)	教育実習における授業実践の最終的な総括として研究授業を行う
14	学級経営の問題点と課題 (発表と討議)	教育実習における学級経営の経験や学習内容を振り返る
15	「教育実習」全体の総括	教育実習における事前指導、現場における実習、事後指導の総括を行う